

## 2013年度・研究員活動報告

### 2013 Research Reports

#### コミュニティ政策学科

氏名	河東 仁
著書	河東仁（2014）「コミュニティと文化・芸術——文化政策の基礎——」（2014）坂田周一監修『コミュニティ政策学入門』誠信書房.
資料・研究ノート等	「夢と心理学——夢は合わせがら——」（2014）『月刊みんぱく』国立民族学博物館, pp.4-5.
学会発表	1) 河東仁（2013）「井筒俊彦における東洋の宗教理解——宗教心理学の視点から——」日本宗教学会第72回学術大会（國學院大學），9月8日. 2) 河東仁（2014）「物語化としての夢の解釈」物語研究会（日本大学），3月15日.
学内・学外における社会的活動等	新座市障がい者就労支援センター運営委員会会長

氏名	北島 健一
著書	北島健一（2014）「コミュニティ・ビジネスと連帯経済——買い物弱者問題から考える」坂田周一監修『コミュニティ政策学入門』誠信書房.
学内・学外における社会的活動等	1) 2014年3月8日 市民自治と協同労働を考える地域研究会埼玉公開シンポジウム「埼玉におけるワーカーズ運動の地域的展開と協同労働の展望——地域でともに生きる、ともに働く——」（於 コーププラザ浦和）コメンテーター 2) 2013年7月3日 立命館大学産業社会学部・山本耕平研究室・先進プロジェクト研究ゲストスピーカー（連帯経済について） 3) 2013年5月31日 大阪市立大学創造都市研究科・ワークショップ ゲストスピーカー「連帯経済論を考える」

氏名	空閑 厚樹
著書	空閑厚樹（2014）「『生命倫理』から「いのちの倫理学」へ」坂田周一監修『コミュニティ政策学入門』誠信書房.
資料・研究ノート等	（共著）H24 ニッセイ財団環境問題 若手研究奨励研究助成報告書.
学会発表	1) 空閑厚樹（2013）「生命倫理学における持続可能性の検討—フリッツ・ヤールの議論を手がかりとして」日本生命倫理学会 第25回年次大会 於東京大学, 12月1日. 2) 空閑厚樹（2013）「『自己決定』をどのように支えるか——ファシリテーションによる支援の可能性の検討——」第32回日本医学哲学・倫理学会 於大阪歯科大学, 10月19日.

氏名	熊上 崇
著書	熊上崇 (2014) 第13章「ソーシャルサポートとコミュニティ～コミュニティ心理学から考えるギャンブル依存症」坂田周一監修『コミュニティ政策学入門』誠信書房.
学内・学外における社会的活動等	1) 明治大学心理発達臨床センター研修会講師「日本版KABC-IIの概要と使用法」 2) 学校心理士資格認定協会 講師 3) 東京都立足立東高校職員研修会講師「生徒の認知特性と学習習得度を活用した指導」

氏名	小長井 賀與
著書	1) 小長井賀與 (2013)「社会的排除とコミュニティ犯罪と社会の関連をとおして考える」坂田周一監修『新・コミュニティ福祉学入門』有斐閣. 2) 小長井賀與 (2013)「コミュニティの安全・安心」坂田周一監修『コミュニティ政策学入門』誠信書房. 3) 小長井賀與 (2013) 松本勝編『更生保護入門 第3版』成文堂. 4) 小長井賀與 (2013) 生島浩編『新・社会福祉士養成講座20 更生保護制度 第3版』中央法規.
論文	1) 小長井賀與 (2013)「日本更生保護学会記念大会の概要」, 更生保護学研究 第2号, 日本更生保護学会, pp.3-6. 2) 小長井賀與 (2014)「自著を語る『犯罪者の再統合とコミュニティ —司法福祉の視点から犯罪を考える』」, 青少年問題 第653号, 一般財団法人 青少年問題研究会, p.60. 3) 小長井賀與 (2014)「イギリスの犯罪者処遇の動向」罪と罰 第51巻2号, 日本刑事政策研究会, pp.64-71.
学会発表	Kayo Konagai (2013) "Rehabilitation and Criminogenic Needs of the Socially Excluded Recidivists - Evidence-based Japanese Perspective -", World Congress on Probation, London, 10月.
学内・学外における社会的活動等	1) 研究活動: ケンブリッジ大学犯罪学研究所客員研究員, Visiting Scholar, Institute of Criminology, Cambridge University, 2013年4月-2014年3月 2) 翻訳: Professor Tony Wardによる第1回更生保護学会での報告のPPTシート, "Rehabilitation of Offender Treatment: Risk Management and Seeking Good Lives", 更生保護学研究 第2号, 日本更生保護学会, 2013年6月

氏名	坂田 周一
著書	1) 坂田周一 (2013)『新・コミュニティ福祉学入門』(監修・序章担当)有斐閣. 2) 坂田周一 (2014)『コミュニティ政策学入門』(監修・第1章担当)誠信書房. 3) 坂田周一 (2014)『社会福祉政策—現代社会と福祉—〔第3版〕』有斐閣.
学内・学外における社会的活動等	1) 社会福祉士国家試験委員長 2) ユニバーサル財団研究助成審査委員 3) 一般財団法人厚生労働統計協会評議員

氏名	坂無 淳
著書	坂無淳 (2014)「ワーク・ライフ・バランスとジェンダー」坂田周一監修, 三本松政之, 北島健一編『コミュニティ政策学入門』誠信書房.
資料・研究ノート等	1) 坂無淳 (2013)「研究ノート—新任教職員の研究紹介」『立教大学コミュニティ福祉学会『まなびあい』』第6号: pp.130-137.

資料・研究ノート等	2) 坂無淳（2013）「大学におけるハラスメントと研究職をとりまく背景要因—ジェンダーの観点に着目して」第1回キャリア科学研究会（首都大学東京），7月27日．
学内・学外における社会的活動等	1) 坂無淳（2013）「大学教員のジェンダーとワーク＆ライフ」立教大学コミュニティ福祉学部第7回FD研修会（立教大学），12月18日 2) 坂無淳（2013）「研究って一体、何をしているのか？何でしているのか？」立教新座高等学校1年生特別授業（立教大学新座キャンパス），10月3日

氏名	三本松 政之
著書	1) 三本松政之（2013）「包摂的社会へのコミュニティ福祉学—シティズンシップの未来」坂田周一監修『新・コミュニティ福祉学入門』有斐閣． 2) 三本松政之（2013）「無縁社会—孤立する日本社会とそのサポート—」橋本和孝編『縁の社会学』ハーベスト社会． 3) 三本松政之（2014）「シティズンシップとコミュニティ」坂田周一監修『コミュニティ政策学入門』誠信書房．
論文	金信慧，三本松政之（2014）「韓国における自殺予防施策の展開と課題—ソウル特別市の自殺予防体制を事例に—」『コミュニティ福祉学部紀要』第16号，pp.51-74．
学内・学外における社会的活動等	葛飾区社会福祉協議会 介護支援サポーター制度運営協議会委員長

氏名	鈴木 弥生
著書	1) 鈴木弥生（分担執筆）（2014）第8章「社会開発とコミュニティ—バングラデシュ，現地NGOによる草の根レベルでの活動を通して」坂田周一監修，三本松政之・北島健一編著『コミュニティ政策学入門』誠信書房． 2) 鈴木弥生（分担執筆）（2013）第25章「外国援助と社会開発—バングラデシュを通して考える」坂田周一監修，浅井春夫，三本松政之，濁川孝志編集『新・コミュニティ福祉学入門』有斐閣ブックス．
論文	鈴木弥生，佐藤一彦（2013）「バングラデシュ・ダウドウカンディ郡農村の社会開発—貧困女性のエンパワメントに向けたASAの取り組み—」『国際開発研究』国際開発学会，第22巻1号，67-85頁 査読有．
資料・研究ノート等	科学研究費補助金研究成果報告書「バングラデシュの貧困と国際労働移動に関する実態調査」（2011～2013年度，基盤研究C，研究課題番号：23530697）．
学内・学外における社会的活動等	文部科学省科学研究費助成基盤研究C「バングラデシュの貧困と国際労働移動に関する実態調査」による現地調査（3年計画の3年目）

氏名	外山 公美
著書	1) 外山公美・牛山久仁彦共編（2013）『国家と社会の政治・行政学』芦書房． 2) 外山公美（2014）「自治体行政とコミュニティのガバナンス」坂田周一監修『コミュニティ政策学入門』誠信書房．
学内・学外における社会的活動等	1) 行政書士試験制度等調査委員会副委員長 2) 港区情報公開運営審議会副会長 3) 豊島区政策評価委員会委員

氏名	原田 晃樹
著書	1) 藤井敦史, 原田晃樹, 大高研道編著 (2013)『闘う社会的企業—コミュニティ・エンパワメントの担い手—』勁草書房. 2) 原田晃樹 (2013)「地方自治の現代的課題」坂田周一監修『新・コミュニティ福祉学入門』有斐閣. 3) 原田晃樹 (2013)「新しい公共における政府・自治体とサード・セクターのパートナーシップ」『「新しい公共」とローカル・ガバナンス (日本地方自治学会叢書25)』敬文堂. 4) 原田晃樹 (2014)「地方分権と参加・協働」坂田周一監修『コミュニティ政策学入門』誠信書房.
論文	原田晃樹 (2013)「社会的企業による社会的包摂の条件—日本型 WISE としての労働者協同組合—」『生活協同組合研究』448号.
学会発表	Kohki HARADA (2013), The Realities and Challenges of Japanese Social Enterprise as a Means of Social Inclusion: The Study of a Worker Cooperative, 4th EMES International Research Conference "If Not For Profit, For What? And How?", University of Liege, Belgium.
学内・学外における社会的活動等	英国バーミンガム大学客員研究員 (2013年4月～2014年3月)

氏名	原田 峻
論文	1) 原田峻, 西城戸誠 (2013)「原発・県外避難者のネットワークの形成条件——埼玉県下の8市町を事例として」『地域社会学会年報』第25集, pp.143-156. 2) 西城戸誠, 原田峻 (2013)「東日本大震災による県外避難者に対する自治体対応と支援——埼玉県の自治体を事例として」『人間環境論集』第14巻1号, pp.1-26. 3) 原田峻 (2014)「阪神淡路大震災・東日本大震災から見たNPO法制定/改正の意義と課題——被災地の団体への聞き取り調査を中心に」『生協総研賞 第10回助成事業研究論文集』, pp.20-31.

氏名	藤井 敦史
著書	1) 藤井敦史, 原田晃樹, 大高研道編 (2013)『闘う社会的企業—コミュニティ・エンパワメントの担い手—』勁草書房. 2) 藤井敦史 (2013)「社会的企業のハイブリッド構造と社会的包摂」藤村正之編『(シリーズ福祉社会学3) 協働性の社会学—個人化社会の連帯』東京大学出版会. 3) 藤井敦史 (2014)「社会的企業とコミュニティ・エンパワメント」坂田周一監修, 三本松政之, 北島健一編集『コミュニティ政策学入門』誠信書房. 4) 藤井敦史 (2014)「社会的企業研究」堀越芳昭, JC 総研編『協同組合研究の成果と課題1980-2012』家の光協会.
論文	Atsushi Fujii (2013) "Social Inclusion in Japanese Workers' Collectives, Actual Situations and Conditions", EMES-SOCENT Selected Papers, no. LG 13-04, 4 <sup>th</sup> EMES International Research Conference on Social Enterprise, Liege.
学会発表	1) Atsushi Fujii (2013) "Social Inclusion in Japanese Workers' collectives—Actual Situations and Conditions—", 4 <sup>th</sup> EMES International Research Conference "If Not For Profit, For What? And How?" (University of Liege, Belgium), 7月. 2) 2013年11月10日, 地方自治学会 (長岡商工会議所)「社会的企業をどのように考えるか—ハイブリッド構造をめぐって—」(招待講演).

学内・学外 における 社会的 活動等	1) 社会的企業研究会会長 2) 市民セクター政策機構理事 3) PARC（アジア太平洋資料センター）理事 4) 生協総合研究所評議員
-----------------------------	--

氏名	リッチー ザイン
著書	リッチー ザイン (2014)「Race Relations in New Zealand: Toward the Forging of a National Identity」坂田周一監修『コミュニティ政策学入門』誠信書房.
論文	1) Incorporating blended learning into content-based instruction classes: An introduction to social welfare, Journal of the Institute of Community & Human Services, Rikkyo University, Vol 1:1, pp. 85-98 単. 2) Ritchie, Z. & Miller, R. (2014). Utilizing smartphones and tablet technology in CBI courses to enhance the learning experience. In R. Chartrand, G. Brooks, M. Porter, & M. Grogan (Eds.), <i>The 2013 Pan-SIG Conference Proceedings</i> (pp. 322-329). Nagoya, Japan: JALT. 共.
学会発表	1) <i>Utilizing iPhones and Ipads in the Classroom</i> . Pan-Sig, April 23, 2013, Nanzan University. 共. 2) <i>Race relations in New Zealand: Real integration or continued "Assimilation?"</i> . Peace as a Global Language Conference, Nov. 17-18, Rikkyo University ポスター. 3) <i>Applying CLIL with geopolitics in Japanese Universities</i> . At TESOL Arabia, March 2014, Hyatt Regency Hotel, Dubai (With Richard Miller) 共.
学内・学外 における 社会的活動等	Peace as a Global Language 2013学会, 立教大学11月16／17日に開催 学会長

## 福祉学科

氏名	赤畑 淳
著書	1) 赤畑淳 (2014)『聴覚障害と精神障害をあわせもつ人の支援とコミュニケーションー困難性から理解へ帰結する概念モデルの構築』ミネルヴァ書房. 2) 赤畑淳 (2013)「メンタルヘルスとソーシャルワーク」坂田周一監修『新・コミュニティ福祉学入門』有斐閣.
資料・研究 ノート等	岡田隆志, 赤畑淳 (2013)「地域における精神障がい者フットサル活動がもたらすものー障がい者と学生との交流体験からみえる可能性」『立教大学コミュニティ福祉学会「まなびあい」』第6号, pp.163-172.
学会発表	1) 赤畑淳 (2013)「聴覚障害と精神障害を併せ持つ人の理解と支援行為のプロセスー精神保健福祉士へのインタビュー調査によるM-GTA分析」第12回日本精神保健福祉士学会, 石川, 6月. 2) 岩本操, 古屋龍太, 赤畑淳, 西澤利郎, 井上牧子, 大西良, 加藤雅江, 國重智宏, 栗原活雄, 山中達也, 田村綾子, 木太直人 (2013)「『精神保健福祉士業務指針』の意義と課題」第12回日本精神保健福祉士学会, 石川, 6月.
学内・学外 における 社会的 活動等	1) 公益社団法人日本精神保健福祉協会「精神保健福祉士業務指針」作成委員会 委員 2) 社会福祉法人聴力障害者情報文化センター主催「聴覚障害者の精神保健福祉を考えるシンポジウム」コーディネーター 3) 第13回日本精神保健福祉士学会学術集会・第50回公益法人日本精神保健福祉士協会全国大会運営委員会 委員 (ボランティア部会長) 4) 第13回日本精神保健福祉士学会学術集会・第50回公益法人日本精神保健福祉士協会全国大会 抄録原稿査読小委員会 委員

氏名	浅井 春夫
著書	1) 浅井春夫 (2013)「子どもの人権」『新・コミュニティ福祉学入門』有斐閣. 2) 浅井春夫, 吉葉研司共編 (2014)『沖縄の保育・子育て問題』明石書店. 3) 浅井春夫 (2014) (共編)『あっ! そうなんだ! 性と生』エイデル研究所.
論文	1) 浅井春夫 (2013)「沖縄本島の孤児院前史としてのサイパン孤児院の教訓」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第1号, pp.3-25. 2) 浅井春夫 (2013)「保育分野のアウトソーシングの実際と待機児童解消への有効性」『都市問題』11月号, pp.80-90. 3) 浅井春夫 (2013)「石垣救護院の設立と幻の宮古孤児院—沖縄本島以外の孤児院をめぐる動き—」『まなびあい』第6号, pp.76-96. 4) 浅井春夫 (2013)「いま社会福祉研究と実践で何が問われているのか」『まなびあい』第6号, pp.183-193. 5) 浅井春夫 (2014)「コザ孤児院と高橋通仁院長の歩み」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』第16号, pp.3-25. 6) 浅井春夫 (2014)「コザ孤児院の4年間とその歴史的意義」『KOZA BUNKA BOX』第10号, 沖縄市役所, pp.8-22.
資料・研究ノート等	1) 『松本忠徳『自叙傳』「コミュニティ福祉研究所企画研究プロジェクト (教員自由企画型) 助成」2014年2月. 2) 『季刊SEXUALITY』(エイデル研究所)「幼児期にしたい 性のお話」連載.
学内・学外における社会的活動等	1) “人間と性” 教育研究協議会代表幹事 (継続) 2) 『季刊SEXUALITY』編集委員 (継続) 3) 全国保育団体連絡会副会長 (継続) 4) 新座市「子ども・子育て会議」会長 (2013年6月～) 5) 陸前高田市「子ども・子育て会議」委員 (2013年10月～) 6) 日本思春期学会理事 (継続) 7) 日本子どもを守る会『子ども白書』編集委員 (継続)

氏名	飯村 史恵
著書	飯村史恵 (2013)「日常生活に存在する権利」『新・コミュニティ福祉学入門』有斐閣.
資料・研究ノート等	1) 「社会福祉協議会」『精神保健福祉白書2014 歩み始めた地域総合支援』2013年12月中央法規出版. 2) 「安心して働き続ける職場を創る～人材育成と職員教育1・2」『福祉だより信州』2014年3・4月号 長野県社会福祉協議会.
学内・学外における社会的活動等	1) 豊島区補助金等審査委員会委員 2) 社会福祉法人練馬区社協地域福祉活動計画策定評価・推進委員及び権利擁護センター運営委員会副委員長 3) 社会福祉法人文京区社会福祉協議会地域福祉計画推進委員会委員 4) 特定非営利活動法人さぼーと理事 5) 日本福祉介護情報学会理事 6) 滝乃川学園権利擁護委員会委員、救護施設あかつき・共働学舎・つるかわ学園グループホーム第三者委員 7) 一般社団法人日本社会福祉教育学校連盟運営委員・福祉教育委員会委員 8) 科学研究費助成事業 (挑戦的萌芽研究)「日常生活自立支援事業に関する研究—利用者の自己決定とコミュニティワークからの考察」(平成25～27年度・研究代表者) 9) 科学研究費助成事業 (基盤研究c)「地域福祉における社会福祉協議会の意義と問題点—公私の役割分担の再構築に向けて」(平成23～25年度・研究分担者・研究代表者橋本宏子神奈川大学教授)



氏名	岡田 哲郎
資料・研究ノート等	岡田哲郎（2013）「研究ノート（新任教職員の研究紹介）」『まなびあい』第6号，pp.144-146.
学会発表	1) 岡田哲郎（2013）「岡村重夫の『民俗としての福祉』概念の検討（4）」第27回日本地域福祉学会，桃山学院大学，6月。 2) コミ福祉協の会・コミ福公務員の会（ファシリテーターとして参加）（2013）「地域を支える福祉専門職の活動・組織のあり方を考えるワークショップ—社協職員・行政職員が考える問題意識の共有を通して—」立教大学コミュニティ福祉学会“まなびあい”第6回年次大会，埼玉，11月。
学内・学外における社会的活動等	1) 平成24年度笹川科学研究奨励賞受賞研究発表会報告「『ハレ』と『ケ』の福祉論—岡村重夫『民俗としての福祉』概念の可能性」，2013年4月26日 2) 和光市社会福祉協議会「地域支え合い活動情報交換会」基調講演 講師「住民が“主役”の地域づくり」，2013年12月13日 3) 国立音楽大学非常勤講師（～2014.3まで） 4) コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト（石巻拠点・気仙沼大島拠点）

氏名	柴崎 祐美
資料・研究ノート等	柴崎祐美（2013）「研究ノート（新任教職員の研究紹介）」『まなびあい』第6号，pp.147-151.
学会発表	1) 柴崎祐美，佐藤美穂子（2013）「医療的ケアを要する要介護高齢者の介護を担う家族介護者の実態」日本ケアマネジメント学会第12回研究大会，大阪，7月。 2) 柴崎祐美（2013）「在宅看取り後の家族介護者の地域活動等への参加状況からみる家族介護者支援方策の検討」日本老年行動科学会第16回大会，松山，8月。
学内・学外における社会的活動等	1) 柴崎祐美（2014）「義務教育課程におけるエイジング教育の実情と課題」21世紀日本研究セミナー第3回公開ワークショップ～若者と高齢者の関わり～，東京，2月 2) 明治学院大学非常勤講師（継続）

氏名	芝田 英昭
著書	1) 芝田英昭編著（2013）『基礎から学ぶ社会保障』自治体研究社。 2) 芝田英昭編著（2013）『3.11を刻む 医療・介護現場から』文理閣。
論文	1) 芝田英昭（2013）「社会保障制度改革国民会議の議論における医療・介護の方向性」『隔月刊社会保障』NO.450. pp.16-27. 2) 芝田英昭（2013）「TPP参加交渉と公的医療」『住民と自治』通巻605号. pp.17-21. 3) 芝田英昭（2013）「社会保障改革プログラム法が目指す医療・介護制度の姿」『月刊保団連』NO.1149. pp.4-13.
学会発表	芝田英昭（2013）「2015年介護保険制度見直しの動向と問題点」2013年11月全国老人問題研究会例会，東京，11月。
学内・学外における社会的活動等	1) 日本社会福祉学会関東部会 運営委員（継続） 2) 日本社会福祉学校教育連盟 入会審査委員・学科認証評価委員（継続） 3) 自治体問題研究所 理事・『住民と自治』編集委員（継続） 4) 埼玉県医療生活協同組合社会貢献活動審査委員会委員長 5) 社会保障政策研究会代表

氏名	杉山 明伸
著書	杉山明伸（2013）「ハンセン病の歴史から学んだこと」坂田周一監修，浅井春夫，三本松政之，濁川孝志編著『新・コミュニティ福祉学入門』有斐閣.
学会発表	1) 安井知之，杉山明伸他（2013）「介入時期・依頼者別のデータから見えてきたもの」第18回埼玉県医療社会事業学会，埼玉，4月. 2) 安井知之，杉山明伸他（2013）「急性期病院におけるソーシャルワーカーへの介入依頼について」第63回日本病院学会，新潟，6月. 3) 杉山明伸，大塚智秋他（2013）「地域とソーシャルワーカー（シンポジウム）」地域医療研究会全国大会2013，東京，9月.
学内・学外における社会的活動等	1) 社団法人埼玉県医療社会事業協会会長 2) 社会福祉法人ふれあい福祉協会評議員 3) 社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会契約締結審査会委員 4) 自治医科大学附属さいたま医療センター臨床研究倫理審査委員会委員

氏名	角田 慰子
著書	1) 角田慰子（2013）「知的障害のある人たちのグループホーム」坂田周一監修，浅井春夫，三本松政之，濁川孝志編著『新・コミュニティ福祉学入門』有斐閣. 2) 角田慰子（2014）『知的障害福祉政策にみる矛盾—「日本型グループホーム」構想の成立過程と脱施設化』ぶねうま舎.
学内・学外における社会的活動等	2013年度コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金・企画研究プロジェクトⅢ「滝乃川学園における地域生活支援の展開過程—東京都生活寮事業を中心に」

氏名	長倉 真寿美
著書	長倉真寿美（2013）「少子高齢社会と地域包括ケア」坂田周一監修『新・コミュニティ福祉学入門』有斐閣.
学会発表	1) 長倉真寿美（2012）「情報連携及び情報提供が在宅化推進に与える影響に関する一考察」日本福祉介護情報学会 第14回研究大会，東京，12月. 2) 長倉真寿美（2012）「地域包括ケアシステム構築の手法に関する研究 —量的・質的データを併用したアプローチ法—」2013年度 日本社会福祉学会関東部会研究大会，東京，3月.
学内・学外における社会的活動等	1) 第2期横浜市地域福祉計画策定・推進委員会委員 2) 豊島区介護保険事業計画推進会議委員 3) 江東区権利擁護センター「あんしん江東」運営委員会委員長 4) 江東区地域福祉活動計画策定委員会委員 5) (公財) いきいき埼玉 彩の国いきがい大学「若い世代との交流事業」講師・コーディネーター 6) コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト（石巻市） 7) 科学研究費助成事業（基盤研究(c)）「保険者類型別地域包括ケアシステムの構築方法に関する研究」（平成25～28年度：研究代表者）

氏名	平野 方紹
著書	1) 平野方紹（2013）「第8章 生活保護…生存権保障のセイフティ・ネット」芝田英昭編著『基礎から学ぶ社会保障』（共著）自治体研究社.



著書	2) 平野方紹（2013）「第2章第2節 障害者総合支援法の組織及び団体の役割／第3節 障害者総合支援法とマンパワー／第4節 障害者総合支援法の今後の動向」小澤温、大島巖編著『障害者に対する支援と障害者自立支援制度（第2版）』（共著）ミネルヴァ書房。 3) 平野方紹（2013）「第1編第1章1 障害者自立支援法から障害者総合支援法までの経緯と今後」障害者総合支援法研究会編 全体の監修・編集・執筆『障害者総合支援法ハンドブック』（共著）ぎょうせい。 4) 平野方紹（2014）「第1章第6節 生活の支援と福祉の体系」「第4章第1節 障害者の自立とその支援制度」「第5章第4節 生活を支える諸制度のあらまし／第5節 高齢者・障害者の住生活を支援する諸制度」高橋信幸，平野方紹，増田雅暢編著『新・介護福祉士養成講座 社会の制度と理解（第4版）』（共著）中央法規出版。 5) 平野方紹（2014）蟻塚昌克，関川芳孝編集『社会福祉学習双書2014 社会福祉概論Ⅱ—福祉行財政と福祉計画／福祉サービスの組織と経営』（共著）全国社会福祉協議会。 6) 平野方紹（2013）「第20章 広がる福祉問題に社会福祉はどう応えるのか」坂田周一監修『新・コミュニティ福祉学入門』（共著）有斐閣。
論文	1) 平野方紹（2013）「障害者総合支援法はなぜ生まれ、何を目指すのか」『さぼーと』No.675（日本知的障害者福祉協会）2013.4 pp.11-13。 2) 平野方紹（2013）「論考 地方自治体による障害者条例の可能性と課題」『すべての人の社会』No.397（日本障害者協議会）2013.7 pp.6-7。 3) 平野方紹（2014）「障害者福祉の制度・政策をめぐる状況—障害者総合支援法の全面施行に向けて—」『経営協』第366号（全国社会福祉法人経営者協議会）2014.3 pp.12-19。
資料・研究ノート等	平野方紹（2014）「センターだより100号の軌跡と今後の障害者施策の焦点」『SSCセンターだより』第100号（埼玉県障害者社会参加促進センター）2014.3 pp.4-5。
学内・学外における社会的活動等	1) 立教大学ボランティアセンター センター長 2) 内閣府障害者差別解消支援地域協議会の在り方検討会 委員 3) 埼玉県自立支援協議会 会長 4) 埼玉県運営適正化委員会 委員長 5) さいたま市障害者政策委員会 委員長 6) さいたま市社会福祉法人設立認可等審査委員会 委員 7) 川越市社会福祉審議会 委員 8) 新座市障害者施策推進協議会 会長 9) 志木市障害者地域自立支援協議会 会長 10) 桶川市地域福祉計画策定委員会 委員長 11) 日本社会福祉学会 評議員 12) 介護福祉士国家試験 試験委員

氏名	松山 真
論文	松山真（2013）特集「東日本大震災 復興期におけるメンタルヘルス対策」「すべてが『未曾有』の体験 想像力を働かせて対応を考える」『地方公務員安全と健康フォーラム』地方公務員安全衛生推進協会，第88号（2013年8月号），pp.10-15。
資料・研究ノート等	松山真（2013）「陸前高田市における自殺予防対策」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第1号，pp.99-106。
学内・学外における社会的活動等	1) 陸前高田市自殺予防対策庁内連絡会アドバイザー 2) コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト委員長 3) 立教大学東日本大震災復興支援本部委員 4) 立教大学総長室調査役（震災復興支援担当） 5) 立教大学陸前高田支援教員プロジェクト委員長 6) 法務省矯正局「社会復帰支援プログラム策定委員会」アドバイザー 7) 北海道医療ソーシャルワーカー協会研修専門委員

氏名	森本 佳樹
学会発表	森本佳樹（2013）日本福祉介護情報学会 第14回研究大会 基調報告「地域包括ケアにおける情報連携を考える ～当事者意識を高めるための情報のあり方に焦点をあてて～」, 立教大学, 12月.
学内・学外 における 社会的 活動等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト 委員</li> <li>2) 日本福祉介護情報学会 副代表理事・事務局長</li> <li>3) 日本生命済生会『地域福祉研究』 編集委員</li> <li>4) 厚生労働省社会保障審議会 専門委員 (介護給付費分科会介護報酬改定検証・研究委員会 委員)</li> <li>5) 総務省地域実践活動に関する大学教員ネットワーク 幹事</li> <li>6) 独立行政法人福祉医療機構 WAM NET 事業推進専門委員会 委員</li> <li>7) 東京都社会福祉審議会 委員</li> <li>8) 東京都「都内避難者孤立化防止事業」実施地区連絡会 アドバイザー</li> <li>9) 埼玉県社会福祉協議会福祉人材センター運営委員会 副委員長</li> <li>10) 山形県高島町地域福祉計画策定推進委員会 アドバイザー</li> <li>11) 和光市地域福祉計画推進委員会 委員長</li> <li>12) 和光市社会福祉協議会地域福祉活動計画推進委員会 委員長</li> <li>13) 市川市社会福祉審議会 会長（～2013.6）</li> <li>14) 新宿区社会福祉協議会経営計画策定委員会 委員長</li> <li>15) 練馬区社会福祉協議会地域福祉活動計画策定推進委員会 委員長</li> <li>16) 江東区社会福祉協議会地域福祉活動計画策定推進委員会 委員長</li> <li>17) 練馬区社会福祉協議会ボランティア・地域福祉推進センター運営委員会 副委員長</li> <li>18) 武蔵野市地域包括支援センター運営協議会 会長</li> <li>19) 武蔵野市地域リハビリテーション推進協議会 委員</li> <li>20) 国分寺市地域福祉計画策定委員会 委員長</li> <li>21) 立川市地域福祉計画・立川市社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会 委員長</li> <li>22) 立川市地域福祉計画推進委員会 委員長</li> <li>23) 立川市社会福祉協議会地域福祉活動計画推進委員会 委員長</li> <li>24) 立川市社会福祉協議会 スーパーバイザー</li> <li>25) 横浜市地域福祉計画策定推進委員会 委員長</li> <li>26) 石川県津幡町地域福祉計画推進委員会 アドバイザー</li> <li>27) 熊本県水俣市社会福祉協議会 アドバイザー</li> <li>28) 埼玉県社会福祉協議会 評議員</li> <li>29) 社会福祉法人にんじんの会 理事</li> <li>30) 社会福祉法人至誠学舎第3次至誠ホーム中長期計画策定委員会 委員長</li> <li>31) NPO法人福祉の資料と情報 代表</li> <li>32) NPO法人コレクティブ 理事</li> <li>33) NPO法人ケア・センターやわらぎ 理事</li> <li>34) 株式会社ナレッジ・マネジメント・ケア研究所 (KMCI) フェロー</li> <li>35) 平成25年度老人保健健康増進等事業「運営推進会議等を活用した小規模多機能型居宅介護の質の向上に関する調査研究事業」(NPO法人全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会) 検討委員会委員長（報告書, 2014年3月）</li> </ol>

氏名	山口 敬子
著書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 山口敬子（2013）「児童の社会的養護と里親制度」坂田周一監修『新・コミュニティ福祉学入門』有斐閣ブックス.</li> <li>2) 山口敬子（2014）「ギャクタイ（虐待）ってどういうこと？」“人間と性”教育研究協議会編『季刊セクシュアリティ』エイデル研究所.</li> </ol>
資料・研究 ノート等	研究代表者・開原久代（2014）「社会的養護における児童の特性別標準的ケアパッケージー被虐待児を養育する里親家庭の民間の治療支援機関の研究ー」厚生労働科学研究費補助金・政策科学総合研究事業平成25年度 総括・分担研究報告書（研究協力者として参加）.

学会発表	平田美智子，三輪清子，山口敬子「里親支援機関事業の実施状況―平成23年度全国の自治体へのアンケート調査より―」日本社会福祉学会第60回秋季大会，2013年9月。
学内・学外における社会的活動等	養子と里親を考える会 理事

氏名	結城 俊哉
著書	1) 結城俊哉（2013）『ケアのフォークロア：対人援助の基本原則と展開方法』高菅出版。 2) 結城俊哉（2014）「第1部・相談援助活動の基本原則と展開の方法」結城俊哉，長野秀樹著『相談活動と言語としての手話』文理閣。 3) 結城俊哉（2014）「第5章Ⅲ・精神保健福祉に関する調査研究」精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『改訂・精神保健学―精神保健の課題と支援』へるす出版。 4) 結城俊哉（2014）「第2章 生活者の健康と福祉」・「第3章 社会福祉諸法の基本理念と施策体系 第1節 社会福祉諸法の概要，第2節 社会福祉諸法における福祉施策の基本的考え方」眞船拓子，杉本正子，結城俊哉，丸山美知子共編『（改訂）看護職のための社会福祉・社会保障』ヌーヴェルヒロカワ。
資料・研究ノート等	結城俊哉（2013）「書評りぶらい」一般社団法人日本社会福祉学会編『社会福祉学』Vol.54-3（No.107），pp.219-221.
学会発表・講演・シンポジウム等	結城俊哉（2013）『相談援助の理論と実際』主催：一般社団法人全国手話通訳問題研究会／場所：香川県高松市高松センタービル，7月。 結城俊哉（2013）『自己の経験を語ること，聴くこと，記録することの意味』主催：宮城県山元町震災復興を考える地域住民・土曜日の会／場所：普門寺，9月。 結城俊哉（2014）『当事者のニーズとは何か？～保健医療福祉をめぐる当事者問題と支援の方法を考える～』主催：筑波大学看護部研修会／場所：日立総合病院，2月。
学内・学外における社会的活動等	1) 「つくば市障害者虐待防止ネットワーク運営委員会・委員長」（2012.10～2014.3） 2) 「つくば市地域包括支援センター運営協議会・委員長」（2012.12～2014.3） 3) 「調布市こころの健康支援センター運営委員会・委員長」（2007.4～現在） 4) 「茨城県守谷市福祉有償運送等運営協議会・委員長」（2006.2～現在） 5) 一般社団法人日本社会福祉学会『社会福祉学』学会誌編集委員（2012.10～現在）

氏名	湯澤 直美
著書	1) 湯澤直美（2013）「ひとり親世帯をめぐる分断の諸相」庄司洋子編『親密性の福祉社会学―ケアが織りなす関係』東大出版会。 2) 湯澤直美（2013）「シェルターに辿り着いた女性たち」「制度からこぼれおちる女性たち」戒能民江編『危機をのりこえる女たち―DV法10年、支援の新地平へ』信山社。 3) 湯澤直美（2014）「女性の貧困・女性への暴力と母子生活支援施設」古川孝順監修『再構 児童福祉―子どもたち自身のために』筒井書房。
論文	1) 湯澤直美（2013）「子どもの貧困対策の推進に関する法律の制定経緯と今後の課題」『貧困研究』Vol.11，pp.50-60. 2) 湯澤直美（2014）「母子世帯の貧困と社会政策」『教育と医学』No.727，pp.74-81.
資料・研究ノート等	1) 湯澤直美（2013）「人権／社会正義と子どもの貧困対策の推進」『さいたまの教育と文化』(69)，pp.17-19. 2) 湯澤直美（2013）「母子世帯の貧困は解消されるか」『福祉社会学ハンドブック 現代を読み解く98の論点』福祉社会学会編。 3) 湯澤直美（2013）「子ども時評 全党一致で成立 “子どもの貧困対策法”」『はらっぱ』No.342，pp.26-27. 4) 湯澤直美（2013）「子どもの貧困問題からみた生活保護制度改革」日本社会福祉学会

資料・研究 ノート等	<p>学会ニュース No.63.</p> <p>5) 湯澤直美 (2014)「日本の子どもの貧困の実情」『保育通信』No.706, pp.12-15.</p> <p>6) 湯澤直美 (2014)「子どもの権利保障としての「子どもの貧困対策」」社会運動 (408), pp.40-42.</p> <p>&lt;その他&gt;</p> <p>7) 「母子・父子」社会調査事典, 丸善出版, 2014年1月.</p> <p>8) 「“子どもの貧困対策法”と学校」『教職研修』42 (2), pp.11-13, 2013-10.</p> <p>9) 「子どもの貧困問題は社会の問題 上」『週刊 教育資料』(1266) (1396), pp.4-6, 2013年9月.</p> <p>10) 「学校は重要なセーフティーネット 下」『週刊 教育資料』(1267) (1397), pp.4-6, 2013年9月.</p> <p>11) 「ピープル—子どもの貧困問題は、痛みや救済ではない」『地域保健』2013年11月号, pp.104-111.</p> <p>12) 「子どもの貧困—すべての子どもに豊かな未来を」『母のひろば』593号, 2013年10月, pp.4-5.</p> <p>13) 「子どもの貧困にジェンダーの視点を」(巻頭言)『We Learn』日本女性学習財団, 2013年10月.</p> <p>14) 共同通信書評「誕生日を知らない女の子」2014年1月.</p> <p>15) 共同通信「識者評論」2013年6月(記事掲載).</p> <p>16) 時事通信「生活者の視点」2014年1月(記事掲載).</p>
学会発表	<p>日本臨床教育学会第3回研究大会基調講演「日本における子どもの貧困と家族への支援」 武庫川女子大2013年9月28日.</p>
学内・学外 における 社会的 活動等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 全国社会福祉協議会・母子生活支援施設協議会 中央推薦協議委員</li> <li>2) 厚生労働省「施設運営等指針の手引き書の作成ワーキンググループ」委員</li> <li>3) 東京都社会福祉協議会「平成25年度 低所得世帯の子どもへの支援構築プロジェクト」委員長</li> <li>4) 東京都社会福祉協議会「平成25年度 自立生活スタート支援事業運営審査委員会」副委員長</li> <li>5) 社会福祉法人「礼拝会」評議員</li> <li>6) 社会福祉法人「ベテスタ奉仕女母の家」理事</li> <li>7) 一般社団法人「彩の国子ども・若者支援ネットワーク」理事</li> <li>8) 『貧困研究』(明石書店) 編集委員会委員</li> <li>9) 2010年度～2015年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「“うつ病者の社会的支援”および“自殺予防”に関するソーシャルモデル研究・開発」(分担研究者)</li> <li>10) ソーシャルジャスティス基金助成事業『「生かそう! “子どもの貧困対策法”」市民のちから事業』</li> <li>11) 研修会講師「日弁連第56回人権擁護大会プレシンポジウム・貧困問題全国キャラバンシンポジウム:連鎖する貧困—子どもの貧困の現状と対策」</li> <li>12) 研修会講演「第3回全国母子生活支援施設東北・北海道ブロック職員研修会」全国社会福祉協議会・母子生活支援施設協議会東北・北海道ブロック</li> <li>13) 研修会講師「アスポート教育支援 学習支援ボランティア全体研修」埼玉県アスポート事業</li> <li>14) 内閣府フォーラム「子ども・若者の貧困問題」基調講演・シンポジスト</li> <li>15) 研修会講師・全国社会福祉協議会 平成25年度「暴力被害者支援スキルアップ講座」</li> <li>16) 研修会講師「かつしか区民大学 みんなで考える子どもの貧困」</li> </ol>

## スポーツウエルネス学科

氏名	安藤 佳代子
資料・研究 ノート等	安藤佳代子, 桜井伸二「車いすテニスにおける車いす操作能力と競技成績の関係」, 『中京大学体育研究所紀要』, 第28号, pp.25-28.

学会発表	Kayoko Ando, Shinji Sakurai, Horst Guentzel (2013) Influence of Spinal Cord Injury Level on Wheelchair Propulsion in Wheelchair Tennis Players, 19th International Symposium of Adapted Physical Activity, The Hong Kong Institute of Education, Istanbul, 7月.
学内・学外における社会的活動等	1) 日本車いすテニス協会理事 2) 科学研究費助成金 若手研究 (B) 「テニスコートの違いによる競技用車椅子の摩擦抵抗」, 研究代表者, 2012年-2014年

氏名	石渡 貴之
著書	石渡貴之 (2013) 「第9章 生活習慣とウエルネス—生理学的・神経科学的観点からのアプローチ—」 坂田周一監修, 浅井春夫, 三本松政之, 濁川孝志編『新・コミュニティ福祉学入門』有斐閣ブックス.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Takayuki Ishiwata, Kota Suzuki, Chisa Ninomiya, Shinya Yanagita, Hiroshi Hasegawa, (2013) "Effects of exercise or thermal exposure on monoaminergic neurotransmitters in the hypothalamic area., Neuroscience 2013", San Diego, 11月.</li> <li>2) Kota Suzuki, Chisa Ninomiya, Shinya Yanagita, Hiroshi Hasegawa, Takayuki Ishiwata, (2013) "Comparison of monoaminergic neurotransmitters in rats in isolation or group breeding environments., Neuroscience 2013", San Diego, 11月.</li> <li>3) 石渡貴之, 鈴木航太, 二宮千紗, 松村健, 中川晃, 柳田信也, 長谷川博 (2013) 「暑熱順化に伴う視床下部領域の脳内神経伝達物質の変動 (ワークショップ5: 体温調節)」第68回日本体力医学会, 東京, 9月.</li> <li>4) 中川晃, 鈴木航太, 松村健, 二宮千紗, 柳田信也, 長谷川博, 石渡貴之 (2013) 「暑熱順化に伴う運動関連領域の脳内神経伝達物質の変動 (ワークショップ8: 神経活動と運動)」第68回日本体力医学会, 東京, 9月.</li> <li>5) 鈴木航太, 松村健, 中川晃, 二宮千紗, 柳田信也, 長谷川博, 石渡貴之 (2013) 「若齢期の飼育環境がラットの脳内神経伝達物質に与える影響」第68回日本体力医学会, 東京, 9月.</li> <li>6) 松村健, 鈴木航太, 中川晃, 二宮千紗, 柳田信也, 長谷川博, 石渡貴之 (2013) 「照明環境が脳内神経伝達物質に及ぼす影響」第68回日本体力医学会, 東京, 9月.</li> <li>7) 二宮千紗, 中川晃, 松村健, 鈴木航太, 依田珠江, 石渡貴之 (2013) 「寒冷血管拡張反応に影響を及ぼす生理指標の解明」第68回日本体力医学会, 東京, 9月.</li> <li>8) 柳田信也, 久保田夏子, 高野由莉香, 松澤智美, 鈴木航太, 石渡貴之, 武田健 (2013) 「ラットにおける移動運動量の個体差と脳内モノアミンレベルの関係性」第68回日本体力医学会, 東京, 9月.</li> <li>9) 柳田信也, 久保田夏子, 高野由莉香, 松澤智美, 鈴木航太, 石渡貴之, 武田健 (2013) 「ラットにおける低活動量と脳内セロトニン量の関係」第158回日本体力医学会関東地方会, 立教大学, 7月.</li> </ol>
学内・学外における社会的活動等	<p>(社会的活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日本体力医学会 評議員</li> <li>2) 公益社団法人 全国大学体育連合 常務理事, 指導者養成委員会 委員長</li> <li>3) 新座市健康づくり推進協議会 委員 (講演会)</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 平成25年度ヘルスケア研修会「心身コンディショニングと生体リズム～体温調節, 睡眠, 脳内調節機構の観点から～」, 栃木県国民健康保険団体連合会, 2013年9月</li> <li>2) 平成25年度第2回食育担当者会「ニューロサイエンスと子どものこころとからだ～しっかり食べて, ぐっすり眠る子はよく育つ～」, 大和市教育委員会指導室, 2013年10月</li> </ol>



氏名	今西 平
論文	今西平, 小芝裕也 (2013)「反応課題を伴うスクワットジャンプの調査」『身体運動文化論攷』第13号, pp.145-158.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 今西平, 出井章雅, 鈴木奈都美, 岡西康法, 尾崎貴汎, 梅林薫 (2013)「日本の一流ジュニアテニス選手の体力的特徴: 2001年~2012年に実施された体力調査結果による分析」第64回日本体育学会大会, 立命館大学, 8月.</li> <li>2) 出井章雅, 鈴木奈都美, 長谷部謙二, 尾崎卓宏, 今西平, 梅林薫 (2013)「男子エリートテニス選手におけるゲーム分析: あらゆる場面におけるテニスのポイント取得の質について」第64回日本体育学会大会, 立命館大学, 8月.</li> <li>3) 鈴木奈都美, 出井章雅, 長谷部謙二, 尾崎卓宏, 今西平, 梅林薫 (2013)「大学男子テニス選手を対象とした体力特性およびグラウンドストロークとフットワーク能力との関係性について」第64回日本体育学会大会, 立命館大学, 8月.</li> <li>4) 出井章雅, 鈴木奈都美, 長谷部謙二, 今西平, 梅林薫 (2013)「男子エリートテニス選手のシングルスにおけるポイント帰結—2013年楽天オープンゲーム分析—」第26回テニス学会大会, 東京理科大学, 12月.</li> </ol>
学内・学外における社会的活動等	立教SFR: 下肢伸展筋力の出力調節トレーニングに関する研究 (2013年度)

氏名	大石 和男
著書	大石和男 (2013)「第8章 ポジティブ心理学への招待」坂田周一監修, 浅井春夫, 三本松政之, 濁川孝志編『新・コミュニティ福祉学入門』有斐閣ブックス.
論文	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 嘉瀬貴祥, 遠藤伸太郎, 矢野麻梨奈, 大石和男 (2013) 大学生における抑うつ傾向と神経質傾向および首尾一貫感覚 (SOC) との関連」学校メンタルヘルス第15号2号, pp.216-224. 査読有 (日本学校メンタルヘルス学会 編集委員長賞 (優秀論文賞) 受賞).</li> <li>2) 遠藤伸太郎, 和秀俊, 大石和男 (2013) Sense of Coherence (SOC) の高い大学生運動部員のスポーツ活動に伴う困難への対処—SOCの低い運動部員との比較に注目して—」体育学研究第58巻1号, pp.19-33. 査読有.</li> <li>3) 嘉瀬貴祥, 遠藤伸太郎, 飯村周平, 大石和男 (2013) 大学生におけるライフスキルと攻撃性および精神的健康との関連. 学校保健研究第55巻5号, pp.402-413. 査読有.</li> </ol>
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Tanaka, T. et al. (2013) Relationship between sports injury and landing step pattern in male long-distance runners. The 18th European College of Sports Science. Book of Abstract, P Barcelona, Spain (July, 2013).</li> <li>2) Kimura, S. et al. (2013) Relationships between cognitive strategies and self-esteem, or the depressive tendency for Japanese college students. The 27th European Health Psychology Society, Book of Abstract, P174, Bordeaux, France (July, 2013).</li> <li>3) Endo, S. et al. (2013). Development of the Japanese version of Inner Strength Scale (ISS-J). The 5th Asian Congress of Health Psychology Program &amp; Abstract Book, P123, Daejeon, Korea (August, 2013) (日本健康心理学会 ヤングヘルスサイコロジスト賞受賞).</li> <li>4) 新谷健介 他 (2013) 被災体験からの立ち直りにおける被災者の心理的变化—阪神淡路大震災被災者の質的研究の観点から—. 日本健康心理学会第26回大会発表論文集, P53, 北海道, 2013年9月7日.</li> <li>5) 木村駿介 他 (2013) 大学生における食生活スタイルと抑うつ傾向の関連. 日本健康心理学会第26回大会発表論文集, P53, 北海道, 2013年9月7日.</li> <li>6) 大石和男 (2013) ウェルネスと生きがい—スピリチュアリティおよびフランクルの実存哲学との観点から—. 第10回日本ウェルネス学会シンポジウム シンポジスト, 東京, 2013年9月16日.</li> <li>7) 大塚光太郎 他 (2013) 東日本大震災におけるグリーフサポートの居場所としての機能について. 日本社会心理学会第54回大会発表論文集, P327, 沖縄, 2013年11月2日.</li> </ol>



学会発表	<p>8) 木村駿介 他（2013）大学生における過剰適応と自尊感情，および抑うつ傾向の関連．日本社会心理学会第54回大会発表論文集，P334，沖縄，2013年11月2日．</p> <p>9) 嘉瀬貴祥 他（2014）大学生におけるライフスキルとSense of Coherenceの関連．日本学校メンタルヘルス学会第17回大会プログラム・抄録集，P100，東京，2014年1月26日．</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 2013年度大学連携講座けんかつオープンカレッジ講師，人を元気にする心理学「心の色眼鏡を変えてみる」．11月10日 2013年</p> <p>2) 2013年度大学連携講座けんかつオープンカレッジ講師，人を元気にする心理学「ポジティブ心理学への招待」．11月17日 2013年</p> <p>3) 2013年度大学連携講座けんかつオープンカレッジ講師，人を元気にする心理学「パーソナリティを考える」．11月24日 2013年</p> <p>4) 2013年度大学連携講座けんかつオープンカレッジ講師，人を元気にする心理学「生きる意味を考える」．12月1日 2013年</p> <p>5) 2013年度大学連携講座けんかつオープンカレッジ講師，人を元気にする心理学「あがりの克服」．12月8日 2013年</p>

氏名	杉浦 克己
著書	<p>1) 酒井健介，杉浦克己（2014）「4章 トレーニング後と試合後のリカバリー」田口素子，樋口満編著『体育・スポーツ指導者と学生のためのスポーツ栄養学』市村出版．</p> <p>2) 杉浦克己（2013）「第10章 食育でQOLを高める」坂田周一監修，浅井春夫，三本松政之，濁川孝志編『新・コミュニティ福祉学入門』有斐閣ブックス．</p>
論文	杉浦克己，酒井健介，竹並恵里，石井好二郎，鳥居俊，杉田正明（2013）「インターハイ陸上競技入賞選手の体調・食生活に関する8年間の調査（短報）～サプリメント摂取、スポーツ障害および体調・食生活に関するプロジェクト調査より～」『陸上競技研究紀要』第9巻，pp.20-24．
資料・研究ノート等	<p>1) ソチ五輪の王者を作る「メダル飯」．週刊朝日，2014年2月14日号，pp.118-119．取材．</p> <p>2) あなたのカラダは半年前に食べたものでできている．週刊ポスト，2014年1月31日号，pp.135-138．取材．</p> <p>3) スポーツサプリメント講座．一個人，2013年10月号，pp.72-79．取材．</p> <p>4) アスリートの「胃」学 補給編 必要なエネルギーと水分量．Tarzan，2013年9月26日号，pp.46-47．取材．</p> <p>5) 糖質制限VSカロリー制限 痩せるのはどっちだ？ 対決4 運動．Tarzan，2013年6月27日号，pp.32-37．取材．</p>
学会発表	<p>1) Katsumi SUGIURA, Takayasu YAMAUCHI, Kensuke SAKAI, Kazuhiro UENISHI (2013): The Nutritional Situation of Victims of the North-eastern Japan Earthquake., European College of Sport Science, Barcelona, 7月．</p> <p>2) Urara SHIBATA, Katsumi SUGIURA, Atsutane OHTA, Kensuke SAKAI (2013): Effect of nutritional education program on adherence to desirable dietary behavior in elite adolescent football players., European College of Sport Science, Barcelona, 7月．</p> <p>3) 杉浦克己（2013）「発育期の食生活のサポート～目指せ！世界のトップ10～日本サッカーとスポーツ医・科学」第68回日本体力医学会大会，東京，9月．</p> <p>4) 菅野恵莉子，杉浦克己，岩切佳子，柴田麗，酒井健介（2014）「高校生ラグビー選手の食生活の現状と食事指導」日本発育発達学会第9回大会，大阪，3月．</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>1) JOC科学サポート部会員</p> <p>2) 日本陸上競技連盟科学委員会委員</p> <p>3) 日本トレーニング指導者協会参与</p> <p>4) 明治大学文学部非常勤講師</p> <p>5) 聖マリアンナ医科大学非常勤講師</p> <p>6) 日本大学生物資源科学部非常勤講師</p> <p>7) 花田学園AT科非常勤講師</p>

学内・学外 における 社会的 活動等	8) (財)日本水泳連盟 公認コーチ養成講習会講師 9) (財)日本ボディビル連盟 指導者養成講習会講師 10) (財)体力づくり指導協会 高齢者体力づくり支援士養成講習会講師 11) (社)日本フィットネス協会主催Fitness Forum 講師 12) 群馬県太田市 おおたスポーツ学校講師
-----------------------------	---

氏名	濁川孝志
著書	濁川孝志 (2013)「環境問題とウエルネス」坂田周一監修, 浅井春夫, 三本松政之, 濁川孝志編『新・コミュニティ福祉学入門』有斐閣.
論文	1) 濁川孝志 (2013)「アウトドア・アクティビティによるウエルネスの醸成 —現代社会におけるアウトドア・アクティビティの意義を考える—」立教大学コミュニティ福祉学部紀要 第16号 pp.75-88. 2) 和秀俊, 廣野正子, 遠藤伸太郎, 満石寿, 濁川孝志 (2013)「日本人の持つスピリチュアリティ概念構造の探索的な分析〜心の問題から生じる社会問題の解決に向けて〜」立教大学コミュニティ福祉学部紀要 第16号 pp.39-50.

氏名	沼澤 秀雄
著書	1) 沼澤秀雄 (2013)「ウエルネス社会を目指した健康づくり」坂田周一監修, 浅井春夫, 三本松政之, 濁川孝志編『新・コミュニティ福祉学入門』有斐閣. 2) 沼澤秀雄 (2013)「こどもの体力と運動能力の特性」「こどものスポーツ活動と水分補給」キッズアスレティックス研究会編集『キッズアスレティックス教本 [改訂版]』東京平版.
論文 online	Peñailillo, L, Blazeovich, A., Numazawa, H., Nosaka, K. (2014) "Rate of force development as a measure of muscle damage" Scandinavian Journal of Medicine and Science in Sports, doi: 10.1111/sms.12241.
資料・研究 ノート等	ヘルシーキッズBRTプログラム 教師用手引き ネスレヘルシーキッズプログラム 2014.
学会発表	1) 沼澤秀雄 (2013)「ウエルネス専攻学生の体罰に対する意識について—朝日新聞社調査との比較—」日本ウエルネス学会第10回大会, 明治大学, 9月. 2) 神山淳悟, 沼澤秀雄 (2013)「大学ラグビー選手におけるスプリントスピードと体力の関連について」第11回日本フットボール学会, 東海大学, 12月.
学内・学外 における 社会的 活動等	1) 日本陸上競技連盟普及・育成委員 U-13クリニック講師 U-16指導者講習会講師, トップトレーニングキャンプ講師 2) 日本サッカー協会フィジカルプロジェクト委員 指導者養成講習会S級講師, U-12A級講師, アカデミーコーチ (ランニングコーディネーション担当) 3) 日本キッズアスレティックス協会理事 IAAF CECS レベル1 講師 レベル1 コーチ 4) 日本レジャー・レクリエーション学会 理事長 5) 日本スポーツ仲裁機構啓発活動委員会委員

氏名	松尾 哲矢
著書	1) 松尾哲矢 (2013)「スポーツボランティアの将来—「する」「みる」「ささえる」の関わり—」笹川スポーツ財団SSFスポーツライフ調査委員会『青少年のスポーツライフ・データ2013』笹川スポーツ財団. 2) 中村和彦, 白旗和也, 内藤久士, 松尾哲矢 (2013)「子どものスポーツ」渡邊一利編

著書	<p>『スポーツ白書』笹川スポーツ財団.</p> <p>3) 松尾哲矢 (2013)「総合型地域スポーツクラブとコミュニティ形成」浅井春夫, 三本松政之, 濁川孝志編『新・コミュニティ福祉学入門』有斐閣.</p> <p>4) 松尾哲矢 (2013)「『コミュニティ福祉学』の挑戦—あとがきに代えて」浅井春夫, 三本松政之, 濁川孝志編『新・コミュニティ福祉学入門』有斐閣.</p>
論文	<p>松尾哲矢, 河西正博, 依田珠江, 和秀俊 (2013)「車椅子運動が子どもにもたらす生理的・社会心理的効果に関する研究」SSFスポーツ政策研究第2巻1号, pp.222-229.</p>
資料・研究ノート等	<p>1) 松尾哲矢 (2013) 巻頭言「コミュニティ福祉研究所の設立と紀要の誕生」コミュニティ福祉研究所紀要第1号, pp.1-2.</p> <p>2) 松尾哲矢 (2014) 巻頭言「経験の世界と概念」コミュニティ福祉学研究科紀要第12号, p.1.</p> <p>3) 松尾哲矢 (2014)『文部科学省委託事業「平成25年度若者のスポーツ参加機会拡充を通じた地域コミュニティ活性化促進事業報告書」』.</p> <p>4) 松尾哲矢 (2014)『文部科学省委託事業「平成25年度高齢者の体力づくり支援事業報告書」』.</p>
学会発表	<p>1) 杉原宗, 松尾哲矢 (2013)「高校野球における選手の「自主性」のあり方に関する研究」(一社)日本体育学会第64回学会大会, 立命館大学, 8月.</p> <p>2) 長谷直樹, 松尾哲矢 (2013)「箱根駅伝における「物語」の生成に関する研究」(一社)日本体育学会第64回学会大会, 立命館大学, 8月.</p> <p>3) 村本宗太郎, 松尾哲矢 (2013)「体罰の発生機序に関する基礎的研究—「飛び地」としての学校運動部空間の構造に着目して—」(一社)日本体育学会第64回学会大会, 立命館大学, 8月.</p> <p>4) 中山健二郎, 松尾哲矢 (2013)「地域におけるプロスポーツの「根づき」に関する研究—高知ファイティングドッグス球団および佐川町、越智町の取り組みをめぐって—」(一社)日本体育学会第64回学会大会, 立命館大学, 8月.</p> <p>5) 杉原宗, 松尾哲矢 (2014)「高校野球における選手の「自主性」の形成とその隘路に関する研究—「指導者」と「選手」間比較を通して—」日本スポーツ社会学会第23回学会大会, 北海道大学, 3月.</p> <p>6) 村本宗太郎, 松尾哲矢 (2014)「学校教育における体罰をめぐる懲戒と体罰の判断基準の揺らぎに関する研究」日本スポーツ社会学会第23回学会大会, 北海道大学, 3月.</p> <p>7) 鈴木貴大, 松尾哲矢 (2014)「総合型地域スポーツクラブにおけるクラブマネージャーの力量形成に関する研究」日本スポーツ社会学会第23回学会大会, 北海道大学, 3月.</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 文部科学省スポーツ・青少年局「スポーツ・青少年スポーツ振興課技術審査委員会」技術審査専門員</p> <p>2) 文部科学省委託（公益財団法人日本レクリエーション協会）「若者のスポーツ参加機会拡充を通じた地域コミュニティ活性化促進事業」委員長</p> <p>3) 文部科学省委託（公益財団法人日本レクリエーション協会）「高齢者の体力づくり支援事業」委員</p> <p>4) 文部科学省委託（公益財団法人日本レクリエーション協会）「レクで学校丸ごと元気アップ事業」委員</p> <p>5) 笹川スポーツ財団「SSFスポーツライフ調査委員会」委員</p> <p>6) 公益財団法人日本体育協会「指導者育成専門委員会」委員</p> <p>7) 公益財団法人日本体育協会「指導者育成専門委員会 スポーツ指導者育成事業推進プラン戦略会議」座長</p> <p>8) 公益財団法人日本体育協会「Sports Japan」編集部会副部長</p> <p>9) 公益財団法人日本体育協会「スポーツ医・科学専門委員会」委員（学会関係）</p> <p>1) (一社)日本体育学会体育社会学専門領域研究委員</p> <p>2) 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事</p> <p>3) 日本レジャー・レクリエーション学会 学会賞選考委員会 委員長</p> <p>4) (一社)日本体育学会「体罰・暴力根絶特別委員会」体育社会学専門領域選出協力委員</p>

氏名	安松 幹展
資料・研究ノート等	安松幹展 (2014) 「Small-sided games and integrating physical preparation」の内容①, Technical News, 日本サッカー協会技術委員会, Vol.60, pp.44-45.
学会発表	1) Maesako, M., Yasumatsu, M., Nakamura, D. (2013) "The effects of two weeks of season break for game performance of soccer", ECSS. 2) Brocherie, F., Girard, O., Yasumatsu, M., Hayakawa, N., Millet, G. (2013) "Comparison of two incremental field tests to determine maximal aerobic velocity in Asian professional football players", ECSS. 3) Ishizaki, S., Yasumatsu, M., Nishikawa, S., Inayama, T., Togari, H.3 (2013) "Effects of long-term detraining on physical fitness and body composition in Japanese Jr. youth soccer players", ECSS.
学内・学外における社会的活動等	1) 日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会「スポーツ活動中の熱中症予防に関する研究」研究班員 2) 日本体力医学会評議委員 3) 日本フットボール学会理事・副会長 4) 日本サッカー協会技術委員会フィジカルフィットネスプロジェクトメンバー 5) 日本サッカー協会技術委員会指導者養成部会部会員

氏名	Katrin Jumiko LEITNER (ライトナー・カトリン・友海子)
論文	(博士学位論文) Leitner K. (2013) <i>Der sportliche, schulische und berufliche Weg japanischer Leistungssportler. Die Vereinbarkeit von Schule und Berufsausbildung mit der Ausübung von Leistungssport und der Übergang in die nachsportliche Karriere im japanischen Sportsystem.</i> Universität Wien.
資料・研究ノート等	(翻訳) 菊, 田中, ライトナー共訳「21世紀のスポーツ社会学: 理論、焦点、未来」(Malcolm, Dominic: "The Sociology of Sport in the Twenty-First Century: Theories, Focus, Futures") 日本スポーツ社会学会編, 『21世紀のスポーツ社会学』, 東京: 創文企画, pp.9-38.